

## 書評・紹介

Harald Suppanschitsch und Jürgen Stalpl (2001):

Japanische Sprache und Schrift

— Eine Bibliographie des in deutscher Sprache  
veröffentlichten Schrifttums —

(Bibliographische Arbeiten aus dem Deutschen Institut für Japanstudien der Philipp Franz von Siebold Stiftung Band 7) Mit zwei Anhängen: I. Rezension, II. Ainusprache. 358S. München: IUDICIUM Verlag.

川 島 淳 夫

本書は、その序文に示されているとおり、もうひとつの文献解題（Jürgen Stalpl und Harald Suppanschitsch: Wörterbuch und Glossare. München: iudicium Verlag 1999, 437S.）の姉妹編である。1999年に出版されたこの文献解題のほうは副題として「和独独和辞書・用語集解題」となっているのに対して、本書は主としてドイツ語で書かれたドイツ語・日本語研究の著書・論文を文献学的に整理したもので、付録として書評とアイヌ語研究の文献も採録されている。これらの文献には、1番から2150番まで番号が振られており、古いものでは復刻版 Karl Peter Thunberg (1991) の原書(第1巻1792、第2巻1794)から今日(2000年12月)までの文献がよくぞここまでと感心させられるほどくまなく渉猟され、それぞれについてドイツ語および/またはローマ字で書かれているが、日本語の書名が日本語で印刷されているものもある。

ところで、このような文献目録を作成する仕事は人間の仕事であるから完璧を期することは困難である。本書にもそうした不備がないわけではない。しかし、いくつかの分野で採録漏れがあったとしても、本書の価値を損なうものはいささかもない。

本書の構成は、1. 文献と文献目録 (Bibliographien und Literaturverzeichnisse)、2. 言語学的専門用語集・言語学辞典 (Sprachwissenschaftliche Nomenklatur)、3. 論文・著作集 (Sammelwerke und Gesamtdarstellungen)、4. 言語学 (Sprachwissenschaft): 言語学史、現代以前言語学、現代言語学、5. 言語史 (Sprachgeschichte): 現代以前の言語階位、キリスト教宣教師、現代の言語階位、言語改革と言語変化、6. 比較言語学 (Komparatistik)、7. 音声学と音韻論 (Phonetik und Phonologie)、8. 語彙論と意味論 (Lexik und Semantik): 語源と語史、借用語と外来語、専門語と特殊語、名称論、擬声語、ことわざ、なぞなぞ、ジョーク、語呂合わせ、9. 文法と統語論 (Grammatik und Syntax): 現代以前の言語階位、現代の言語階位、10. 社会語の体系 (Soziativsystem)、11. 方言 (Dialekte)、12. 文字 (Schrift): 転写法、速記法、カリグラフィー、13. 語彙論と辞書編纂法 (Lexikologie und Lexikographie)、14. 社会言語学 (Soziolinguistik): コミュニケーション、言語とメディア、日本における外国語、15. 対照言語学 (Kontrastive Linguistik): 日本語とドイツ語、日本語とその他の言語、16. 翻訳論 (Translatorik): 機械翻訳、17. 言語とコンピュータ (Sprache und Computer)、18. 神経言語学 (Neurolinguistik)、19. 文献学 (Philologie): 言語と文学、テキスト研究、20. 言語と思考 (Sprache und Denken)、21. 言語習得と教授法 (Spracherwerb und Didaktik): 外国語としての日本語、[日本語]教科書、22. 日本・日本語関係一般およびその他 (Allgemeines und Sonstiges)、付録 I: 書評と短信 (Anhang I: Rezensionen und Kurzanzeigen)、付録 II: アイヌ語研究 (Anhang II: Studien zur Ainu-Sprache.) となっている。最後に、論文の表題および人名索引、事項索引が付与されている。このような表題索引というのは今までにあまり例がないのではないか。これはこれから論文を書こうとする者にとって、大いに参考となるだろう。

本書は、標題の『日本の言語と文字』が、示すとおり二人の日本語専門家によって編纂された日本語研究文献として位置づけられるものであるが、われわれゲルマニストにとっても有用な、日本におけるドイツ語研究の視点から集められた、文献も数多く含まれている。

海外(とくにドイツ)では、あまり知名度の高くない日本人ドイツ語研究家の研究論文も多数取り上げられており、ある意味で日本におけるゲルマニスティクを紹介ともなっている。同著者による『和独独和辞書・用語集解題』(1999)とともに座右の書として利用できるまことに便利な本である。この二冊の本を完成させた両著者に敬意を表したい。